平成 25 年 9 月 21 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成 25 年度第 7 回

真理はシンプル

今日の岡本代表幹事の挨拶は、敗戦を機にした日本の国の足跡を社会教育の視点から話されました。非常に興味深い内容でした。先日、季刊誌「知足」のインタビューで矢野彈先生にお話を伺いましたが、相通じるものを感じました。矢野先生は「私は分からなくなった時は必ず原点に戻ります。そして歴史を見直します。歴史を見ること・自分自身の原点に返ること、これが迷った時の対処法です」とおっしゃいました。個人と同時に日本人という部分で考えた時に、日本人の原点は？　日本民族の歴史は？　という見方で見ると、自分自身の立ち位置が見えてきます。

話の中で代表幹事は「終戦」という言い方をしましたが、皆さんは終戦と敗戦どちらの言い方をしますか？　通常日本国が発言する時は「敗戦」という言い方はしません。これは事実を少し歪めて教えていると思います。物事は真正面から見た場合、横から見た場合、角度によってがらっと印象が変わってしまいます。ですから言葉は余程氣をつけて選ばないといけないなと私自身よく反省致します。

又、代表幹事は「我々は 70 年後の歴史の検証者だ」と言いましたが、そろそろ日本人は終戦というものを敗戦と捉えて、今後どういう方向に持っていくべきか、自分たちはどういうふうにして死んでゆくか、次の世代に何をどう伝えるかを考える時代に入ったのだと感じます。ＧＨＱがどういう事を日本にしたのか、日本は韓国に対してどういう事をやっていたのか、台湾や中国に対してはどうか、どういう付き合いだったのか・・・等々、歴史的に俯瞰して見る必要があるだろうと思います。

俯瞰するということで申します。ものを見るには、鳥の眼（マクロ）と虫の眼（ミクロ）で見る必要があります。それから、牛尾治朗さんは魚の眼も必要だと最近言っておられます。魚の眼とは潮流、時代を見る眼ということです。

代表幹事の話を聞いていると、次から次に連想ゲームのように色々なものが浮かんできました。そういう事を考えさせてくれるような話が、毎回出てくると良いなと思いました。ただ、岡本代表幹事は非常にレベルが高いので、もう少し柔らかく分かりやすく言葉を選

ぶように心掛ければ更に素晴らしいと感じます。

私も色々な場所でお話させて戴きますので、時々胸に手を当てて考えなければいけないと思うのは、専門家になると自然と素人を見下すようになる。物事を少し余分に知っているだけで、知らず知らずのうちにちょっと偉くなったような氣分になってしまう。これは氣をつけなければいけません。商売をしている人は専門用語を使ってお客さんに説明する事が多いでしょうが、これは怖いことです。私の体験を申しますと、28 歳で会社を創った頃は自分で提案書や見積書を書きました。分かりやすく「人工が何人で幾ら」と書くと当然値切られますから、専門用語を滔々と並べて〝素人には分からないでしょうが非常に丁寧で良い仕事をします〟という勝手な見積書を出したのです。尤もらしいことをずらずら書きますから、それを見ても分からないと質問してくるお客さんは非常に少ない。創業当時そういう体験をしました。それから数十年経ってシムックスの見積書を見ると、前例踏襲でその頃と同様の書き方をしていましたので、すぐに直すように指示しました。専門用語を使って相手に分からないようにする。そういうやり方は日本国中に溢れています。翻って自分自身の言動を振り返ってどうですか。分かりにくいことを言っていないか、その時、腹の中で〝分からないように喋るからいいんだよ〟と思っていたなら失格です。

学問の世界でも同じです。学問を志す者は、難しいことを咀嚼して分かりやすく言わなければいけません。わざわざ難しい言葉で伝えるのは似非学者です。ですから我々が判断する時には、難しい言葉を分かりやすく言う学者は本物、わざわざ難しく言うのは似非学者とまでは言わなくても、利口ぶりたい人だと考えればよろしいでしょう。碩学といわれるような学者や哲学者になると、「真理はシンプルである」という言い方をします。人類にとって必要な真理は簡単明瞭である、と思えば間違いありません。私も含めて、反省するとよろしいですね。「あの人の話は分かりやすくていいね」と言われるようにしようではありませんか。

点から面へ

私は人さまにお話する時、百人を超すような人が来られている場合や初めての方ばかりの時には、色々な角度から様々な話題を出します。どういう話をすると反応が多く出るかを見るための手法です。色々な話をして、反応を見ながら話を組み立てています。

何度もお話しておりますが、学問は縦の学問がベースです。ものごとを深く掘り下げてゆく学び方です。横の学問は色々な情報や知識をたくさん増やします。それから「点」で、色々なものを情報として入れていくと、ある日突然繋がって「面」に変わります。そうすると人物が一回り大きくなります。フォーラムでは一見関係なさそうな話が沢山出ますが、

それは縦の学問・横の学問の中の「点」の話をしているのだと理解してください。ある日突然、点と点が融合します。融合した時がその人の転機、変わるチャンスの時です。

言葉の持つ力

○　今年の夏は暑かったなという人

皆さんパッと手が挙がりました。その中で「心頭滅却すれば火もまた涼し」と感じられた方はおられますか。・・・一人いらっしゃいました。

言葉というのは面白いもので、頭の中で思っただけではなかなかパワーが出ませんが、口に出して言うとパワーが出ます。ひとつ実験をしてみましょう。体力のありそうな方と体力には自信がなさそうな方、お二人に組んで戴いて押し合いをしてみましょう。

（実験）当然パワーのある人がぐんぐんと押しますね。

では次に、体力のない人は「私は強い！パワー全開！」と言いながら押します。パワーのある人は「私はへなちょこ、弱い弱い」と言いながら押し合います。するとどうでしょう。・・・先程と逆になりました。「強い」と言っただけで、これだけのパワーが出るわけです。自分で体験して実感すると更に分かります。

先程の質問に対して、皆さん瞬間的にパッと手が挙がりました。物事は考えないでサッと行動に移れるくらい研ぎ澄ましておく。何も考えないでパッと動くのではなくて、身体に染み込んだ動きになるとよろしいですね。物が落ちてきた時、無意識のうちにパッと手の甲を上にして払い除けようとします。人間は行動がＤＮＡに仕組まれています。それが後天的に練習を重ねることによって身体に染み付くと、何かとんでもないことが起きた時にスッと反応することが出来ます。

では、恒例の質問に移ります。一所懸命考えないで、無意識の行動で手を挙げるか挙げないか決めて下さい。

○　ひと夏、嘘をつかなかった方

嘘をつかないで毎日を過ごしていると、表情も色艶も良くなるし氣持ちもすっきりします。

○　ひと夏、良い日が続いたなと思う方

悪い日を作るのも良い日を作るのも自分自身です。自分が種を蒔いているのです。良い日か悪い日かを決める尺度は、量ではありません。どこに焦点を当てるかです。良い日だったと思って寝ると、翌朝もすっきり目覚めることが出来ます。

○　ひと夏、有難うと言うことが多かった・有難うと言われることが多かった方

○　ひと夏、よく健康法を実践した方

健康法も自分の身に付いたものがあれば良いですね。何もないという方は、呼吸法だけでも健康法になります。この後、道場で詩吟の練習を致しますので、関心を持たれた方は参加して下さい。呼吸法は吐くのが先です。吸うことは自然と出来ますから、吐くことを意識してください。今回の季刊誌「知足」27 号で竹岡幹事が紹介して下さっていますが、三浦雄一郎さんがエベレストに登った時も、一歩踏み出すごとにハッ、ハッと息を吐いて登っていったそうです。

○　昨夜寝る時に、明日の事（今日のこと）を過去形でイメージして眠れた方

手が挙がった人は、少なくとも今持っている財産が倍になります。

孔子の理想とした幸せ

では、解説を致します。本日は前回の続きで先進第十一　25 の後半です。

孔子を中心にしてお弟子さんが 4 人、和気藹々として非常に良い雰囲氣でおしゃべりをしている場面を想像してください。孔子が 70 代、子路が 60 代、曾皙と冉有が 40 代、公西華が 20 代です。孔子が理想とした幸せについて喋っています。

【二五】点、爾は如何と。瑟を鼓すること希なり。鏗爾として瑟を舎きて作ち、対えて曰く、三子者の撰に異なりと。子曰く、何ぞ傷まんや。亦　各 其の 志 を言うなりと。曰く、莫春には、春服既に成り、冠者五六人、童子六七人、沂に浴し、舞雩に風し、詠じて帰らんと。夫子 喟然として歎じて曰く、吾は点に与せんと。三子者出づ。曾皙後る、曾皙曰く夫の三子者の言、如何と。子曰く、亦　各 其の 志 を言えるのみと。曰く、夫子何ぞ由を哂うやと。曰く、国を為むるには礼を以てす。其の言譲らず。是の故に之を哂うと。唯　求は則ち邦に非ずやと。安んぞ方 六七十、如しくは五六十にして、邦に非ざる者を見んと。唯赤は則ち邦に非ずやと。宋廟会同、諸侯に非ずして何ぞ。赤や之が小為らば、孰か能く之が大為らんと。

孔子に問われて子路・冉有・公西華がそれぞれ自分の志を語った後の、孔子と曾皙のやり取りです。

孔子が曾皙に「お前はどうだ」と聞きました。

曾皙は琴をがらん押しやって、立ち上がって答えました。「私は御三方の心掛けているものとは違います」

・・・長幼の序でいけば子路に次いで曾皙が答えるはずですが、三人の答えを聞きながら瑟（琴のような楽器）を爪弾いていたので後に回ってきたわけです。この場のイメージは、曾皙が立ち上がって孔子の前に行って「では、申し上げます」という感じですから、その

時だけは少し厳粛な雰囲氣が感じられます。

孔子が「それぞれ皆思ったことを言ったのだから、氣にしないでお前も言ってごらん」と言いました。

曾皙が「春の終わり頃には春服が出来上がり、成人した若者五、六人と童子六、七人を引き連れて澄みとおった川で水浴びをし、雨乞い用の台の上で風に吹かれ、自分の好きな歌を歌いながらぶらりぶらりと帰って来たいものだと思います」と答えました。

孔子が「あぁ、お前はそう言うか。私もお前と同じことをしたいものだ」と嘆息して言いました。

三人の弟子が退出し、後に残った曾皙が孔子に質問しました。

「前の三人の言葉は、どのようにお考えになりましたか」

「それぞれが自分の希望を言ったのだ。それで良いではないか」

「では、先生はなぜ子路を笑ったのですか」

「国を治めていくには、礼（謙譲の美徳）が必要である。子路は少しも遠慮することなく大言壮語している。だから笑ったのだよ。冉有は謙遜して六、七十里四方あるいは五、六十里四方と言うけれども、小さくても国家なのだから、素晴らしい国家にしたいと考えている。公西華は宗廟の祭祀や諸侯の重大な国事において、小相として補佐役に甘んじると言うけれども、もし公西華が補佐役なら、誰が大相を務められようか。公西華も謙遜してああ言ったのだよ」

・・・孔子は子路という人物を認めています。周りも認める能力があるのに、なぜ粗野な言動をするのかと思っているので苦笑いが出るのでしょう。また、冉有や公西華に対しても能力を認めているので、「過剰な謙遜はおやめ。態度だけ恭しく謙遜してゆけば中身は皆が認めているのだから実力通りのことをやりなさい」と言っているとお考えください。

日本語の良さ ― ありがとう・おかげさま・もったいない・ほどほど―

私が詩吟の練習に通っている鉄砲洲神社の手水舎にかけてある額に、

威張る時には　神に捨てられ　　欲張る時には　金に背かれ

妬む時には　友を持ち得ず　　怒る時には　己を失う

と書いてあります。毎週、そうだなと思って通るのですが、この間は少し違った見方で考えました。ものを見て「あぁ、そうだな」と思って真似をするのと、そこからちょっととんでもない所へ頭を働かせてみると、全く別の視点でものが見えてきます。威張るな・・・出しゃばるな、ほどほどにせよ。欲張るな・・・ほどほどに、気前よくせよ。という具合に、全てに「ほどほど」が浮かびました。自分で自分を自制する。これは知足の基本に相

通じる言葉です。幸せもほどほどがいいですね。誰もが羨むような幸せを手に入れると、塞翁が馬でひっくり返ることがあります。

日本語には、「ありがとう」「おかげさま」「もったいない」「ほどほど」・・・良い言葉が沢山あるなと感じます。

「ありがとう」という言葉は、有ることが難いという意味です。「盲亀浮木」という言葉があります。お釈迦様が阿難という弟子に説いた譬えで、盲の亀が百年に一度、海底から浮かび上がって海面に出る時、海面に浮かんでいる一本の丸太の穴に頭が入ってしまった。そんなことが出来ると思うかい。お前が人間として産まれたのは、盲の亀が大海に浮かぶ丸太の穴に顔を入れるよりもはるかに難しいことなのだ。だから有難いことなのだよ・・・という話です。我々が人間としてこの世に産まれるには、二億個のうちのたった一つの精子が凄まじい競争を勝ち抜いて、そしてあなたが産まれたわけですから有難いことなのです。有ることが難い、滅多にない事が起きた。それに対して感謝する気持ちを「有難い」といいます。ですから「ありがとう」という言葉は、決して英語の「thank you」だけではない、奥の深い言葉だとお考えください。

「おかげさま」という言葉は、誰だか分からないけれども誰かの力で助けられた、それに対して感謝する氣持ちを言います。西行法師の詠んだ「何事のおはしますかはしらねども、かたじけなさに涙こぼるる」のように、大自然・大宇宙・神様…どういう存在か分からないけれども、お陰様で助けて戴いて有難うございますと感謝する。これも奥の深い言葉です。誰それと特定しているわけではなく、目に見えないもの、この世の動植物全てに「おかげさま」という言い方をします。そして「いただきます」という言葉は、生きている命を戴いて私は生かさせて戴きますという意味ですから、食べることによって命を繋ぐ人と、自分の命を相手に差し上げて相手の中で生きていく動植物、これらが繋がりあっている。そういう考え方を「おかげさま」という言葉は持っていると思います。

「もったいない」という言葉は、勿体が無い。勿体とは本体ですから、芯（コア）になる部分を無しにしてしまうという意味です。ものの本体になるものに対して、手荒く扱うことを嘆く氣持ちを表しています。丁重に扱わねばならないということで、畏れ多いとか敬うという氣持ちが入って来ます。自然を尊重し相手も尊重する、そこに畏れ敬うという氣持ちが入って「もったいない」という言葉が日本語として確立し、今や外国にも出て行っている状況だと考えています。

ありがとう・おかげさま・もったいない・ほどほど・・・他にも素晴らしい言葉が日本語には沢山あります。皆さんも何かハッと思う言葉があったら、是非調べて見るとよろしいでしょう。大切なのはすぐに実行することです。

中斎塾フォーラムの基本理念は「知足」です。足るを知るということを身体に染み込ませるために、縦の学問は陽明学をベースにしています。横の学問は色々な情報を沢山仕入れていく。時事評論という形で見ていきます。横の学問と点を突き合わせていって、それが面になった時にハッと氣が付くと、それがひらめき・悟りに繋がります。

ノーベル賞レベルになると、点と点が結び合って面になる時に、偶然が作用します。ノーベルのダイナマイトの発明は、たまたまニトログリセリンを入れてあった容器が壊れて、漏れ出たニトログリセリンが珪藻土の上で固まった。そこから研究を始めてダイナマイトを発明したわけです。結果的に原子爆弾に繋がってしまいましたが、人類の歴史を変えるような大きな発明は、偶然が起こしたのです。またペニシリンの発明も、バクテリアを研究していたフレミングがたまたま風邪をひいて、培養液の中に鼻水が垂れて菌が繁殖した。そこからペニシリンの発見に結びつきました。すべからく皆、偶然です。

世の中は偶然が多い。偶然と偶然が結びついて必然となると私は感じます。ですから私が中斎塾フォーラムでお話をしていくことによって、皆さんの中に或る日突然、何かがハッと閃くことがあるはずです。その閃きを大事にして分析をする。どうぞそのように心掛けてください。

今朝の新聞から見えるもの

前回も申しましたが、新聞は国民を誘導したい記事を右上に大きな見出しで書き、左側にはその反対的なものを書きます。

今朝の日経新聞を見ると、右上に「シリアの対応、負の連鎖を招く」とあります。「米国は世界の警察官ではないと公言するオバマ米大統領の姿勢が、アジアにも動揺を生んでいる」とあります。

左側には、来年４月に消費税率が８％に引き上げられた場合の価格表示について、スーパーは税抜き、百貨店は税込み表示にする考えであると出ています。

他には、文科省が雇用のミスマッチを減らすために、大学生と中小企業の仲介拠点を全国１３カ所に設けるとあります。学生を甘やかしていると感じます。

更に、ブラック企業について一面大きく載っています。ブラック企業とは学生を百人くらい雇って酷い職場環境で働かせて、数名にふるい落とすということを意識的にやっている会社です。今、世の中の動きで、ブラック企業と名指しをする動きがどんどん進んでいます。ブラック企業でなくてもブラックと名指しされることがいくらでも起きます。

他にも色々な記事が点で出ています。そこから見えてくるのは、人類が弱くなっている

なと感じます。世界の警察であるアメリカが弱腰になったおかげで、中東はガタガタ、ロシアも経済面が落ちてきています。ベトナムやフィリピンといった東南アジアの国々は、中国に対して今まで突っ張っていたのが頭を下げ始めた。アメリカが世界の警察官を辞退し始めたということが、色々な形で影響が表れています。つまり世界は乱れ始めたということです。世界の経済の基盤が崩れている。これから世界の経済危機が起きうるし、それがどんどん近づいてきている。そういうことが今朝の新聞から見えてきます。

日本はどうかというと、どんどん坂道を転げ落ちている最中だということが随所に見られます。マスコミの誘導の仕方もだんだん露骨になっていると感じます。誰が見ても首をかしげるような記事が書かれるようになっている。しかもそれを読んでも氣がつかない動きが多くなった。そうなると新聞は終わりだなと思います。新聞が終わると次は何か・・・。やはりネットでしょうか。それもインターネットの普通に流れるニュースではなくて、ブログ・ツイッター・フェースブックのようなものの中にキラッと光るものが出てきているような感じがします。そういったものにも目を向けていく必要があると思っています。

以上で本日の講話は終了致します。有難うございました。